

# 2011年と2018年に 当科にて抜歯処置や歯が原因で外科処置を受けられた患者様および そのご家族の方へ

—「当科における高齢者の外科的処置を必要とした歯性感染症や腫瘍・嚢胞の臨床的検討」へのご協力のお願—

研究機関名 岡山大学病院

病院長：前田嘉信

研究責任者 岡山大学病院 口腔外科（顎口腔再建外科部門）教授 飯田征二

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

抜歯処置は口腔外科において日常的な治療の一つですが、近年、歯の保存技術の進歩や高齢化に従い、高齢者の残存歯により生じる重篤な感染症や、その炎症が骨髄に及び手術に至る事例、持病の薬の影響で骨が壊死してしまう事例、また顎骨内に残存した歯が原因で腫瘍や嚢胞などの疾患数が増える傾向にあります。一般に抜歯処置は高齢になればなるほど難しくなるため、高齢になってから抜歯を行うと難易度や神経や血管の損傷リスクが上昇し、骨を削る量が増えたり、手術時間が長くなるなど体への負担が増加します。そこで我々は歯をどのような状態であれば、またどの年齢までに抜いておけば、不必要なリスクを減らせるのか調べるために研究を行っています。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

研究成果により高齢者の抜歯における将来のより効果的な手術法や抜歯介入時期の確立に貢献できる可能性があります。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

- ・2011年1月から2011年12月の間に、難抜歯処置、全身状態に配慮した抜歯処置、消炎外科処置などの抜歯以外の追加の外科処置を受けた方、入院管理下での治療が必要となった方、抗菌薬点滴による消炎が必要となった方、全身麻酔下での手術に至った65歳以上の方
- ・2018年1月から2018年12月の間に、難抜歯処置、全身状態に配慮した抜歯処置、消炎外科処置などの抜歯以外の追加の外科処置を受けた方、入院管理下での治療が必要となった方、抗菌薬点滴による消炎が必要となった方、全身麻酔下での手術に至った65歳以上の方

### 2) 研究期間

倫理委員会承認後～2026年3月31日

### 3) 研究方法

従来の診療の一環として撮影されている画像検査のデータや診療上必ず必要となる患者情報から抽出した情報について、匿名化を行い、統計学的な検討を行います。

### 4) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

患者基本情報：年齢、性別、既往歴、血液検査、診断名、手術術式、手術記録、臨床所見、投薬歴  
画像検査（X線写真、CT、MRI）※いずれもカルテ記載や看護記録等の既存の情報から収集します。

## 5) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院口腔外科 顎口腔再建外科部門内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。また研究情報の二次利用の可能性はありません。

## 6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。ただし、すでにデータが解析され、個人を特定できない場合は情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

### <問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 口腔外科 顎口腔再建外科部門

氏名：飯田 征二

電話：086-235-6697（平日月曜日～木曜日：9時00分～17時00分）

ファックス：086-235-6699